

目的 一般に不織布は耐久性よりも手間のかからない「EASY-CARE」を重んじる傾向にあるが、使い捨て衣料としての「ペーパードレス」が日本人の間でも次第に関心もたれてきている。そこで開発途上にあるドレス用不織布を用い、被服衛生学上の立場から着用実験を試み、併せて性能実験も行ないその実用性について検討を行なった。

方法 試料：ドレス用不織布（A、B、C）、芯地用不織布、綿フロード。

実験：(1)着用実験 上記の試料でブラウスを製作、環境気温（30℃、20℃、10℃）において、次の項目の測定を行なった。1)皮膚温 2)衣服気候 3)衣服下湿度
(2)性能実験 1)保温性 2)通気性 3)吸湿性 4)放湿性 5)吸水性 6)耐洗たく性
7)各強度試験 8)その他

結果 衛生面の上から、皮膚温、衣服気候、衣服下湿度は、30℃では材質間に差異は認められず、20℃、10℃においてフロードと最も材質間に差のあるドレス用不織布Cとの間に、季節差・個人差の認められる部位に有意差が認められた。しかし全般的にはいずれも大差なく、短期間使用という観点からドレス用不織布は従来の織物に代り得るものと考えられる。また性能面からは、保温性大、通気性大で、強度の点では織物より劣るが耐洗たく性もあり、使い捨て衣料として用いるなら耐久性への要求度は僅少でよく、軽さ・防しわ性大などの点からも旅行着などの需要に期待されよう。しかし縫製・着心地の面では、これからの改良研究の余地があろう。